

第 6 次岸和田市地域福祉計画・地域福祉活動推進計画に係るテーマ 集計結果

(案 1)「みんなが主役 支え合いの輪でつなぐ 誰もが安心して暮らせる きしわだ」

①「みんなが主役」

高齢者や障害のある人、子どもたちを「支援の対象」ではなく、まちづくりの「主役」として捉え直します。多様な市民がそれぞれの持ち味を活かし、対等に関わり合う社会（ソーシャルインクルージョン）をめざします。

②「支え合いの輪でつなぐ」

制度の縦割りを超え、複数の機関や住民が連携して支援する包括的な体制を表現しています。岸和田の強みである伝統的な地域の団結力を現代的な福祉の「輪」へとアップデートし、地域全体で包み込む体制を作ります。

③「誰もが安心して暮らせる きしわだ」

「誰もが」という言葉には、社会的孤立、ヤングケアラー、ひきこもり、困窮など、あらゆる生きづらさを抱える人を置き去りにしない決意を込めています。どんな状況でも安心して暮らし続けられることをめざします。

11 名

(選択した理由等)

- ・「みんなが主役」この言葉にインパクトがあるので。
- ・「みんなが主役」「誰もが安心」という言葉の繰り返しに、一人も取りこぼさず輝かせるという強い意気込みを感じました。
- ・毎回地域福祉計画はあれもこれも総合的になる傾向があります。第 6 次福祉計画では何かこれを実現しようという骨子の項目があればよいと思います。ちなみに第 3 次総合計画ではふれあいリビングの推進でした。リビングほしがおかのスローガンを同封します。
- ・個人情報、ハラスメント優先の時代。50～60 年前のような他人に世話をやけるようなことができず、隣近所の付き合いも少ない時代。どこまで踏み込んでいけるかが課題かな。
- ・肯定的な表現であり、「みんなが主役」という表現が「自分ごと」として考えるきっかけになればよい。

(案2) 「一人ひとりを孤独にさせない みんなの力でつくる、絆のまち きしわだ」

①「一人ひとりを孤独にさせない」

高齢者の独居、ヤングケアラー、ひきこもりなど、全世代の「社会的孤立」に向き合います。孤立を地域全体のリスクと捉え、アウトリーチや早期発見の体制を強化します。

②「みんなの力でつくる」

「支える側・支えられる側」という従来の垣根を排し、全住民が主役となる「地域共生社会」をめざします。岸和田が誇るだんじり祭りなどで培われた、地域の結束力と活力を福祉分野にも活かします。

③「絆のまち きしわだ」

制度やサービスだけに頼らず、住民同士の「顔が見える関係」や「お互いを気遣う心（温かいお節介）」を大切にします。日常の困りごとや災害時に真価を発揮する「絆」の強化を重視します。

4 名

(選択した理由等)

- ・「みんなの力でつくる」というフレーズがよく聞かれますが、 $1+1=2$ よりも大きくなるイメージができるため。
- ・③の「温かいお節介」は必要ないと個人的に思う。

(案3) 「みんなで創意工夫し支えあい、笑顔あふれるまち」

現行の「第5次岸和田市地域福祉計画」のテーマを踏襲しています。

1 名